

第17(10)話 すべての成績は中間成績、すべての評価は中間評価である

来週、「中間成績発表」がある。「中間」とついているが、今回に限らず、すべての成績は中間成績、すべての評価は中間評価と受け止めるべき。皆さんはこれから、大学生になっても、社会人になっても、ずっと成績をつけられたり、評価されたりしていく。その意味では、一回一回の成績・評価は中間的・暫定的なものであって、最終的・確定的なものではない。

「棺を蓋いて事定まる」という言葉もある。人の本当の評価は、死後に初めて定まるという意味。ゴッホやガリレオ＝ガリレイのように、非業の死を遂げ、後年高く評価される人もいるし、その逆の人もいる。岡本太郎のように、没後、繰り返し再評価され、ブームが起きる人もいる。

何れにせよ、人としての最終評価は、あるとしても先のこと。だから、毎回の中間成績・中間評価に一喜一憂せず、舞い上がったり絶望したりせず、伸ばすべきは伸ばし改めるべきは改める、成長のステップとしたい。

なお、最近の新聞に印象深い記事があった。ボクシングの世界チャンピオンが連打を浴び、レフリーに試合を止められて負けた。初めての敗戦に、号泣しながら語ったという「正直ままだできたと思うが、止められてしまうような流れにした自分が悪い。言い訳できない」とのコメントを読み、他者のせいにしない、潔い姿勢に感銘を受けた。王座からは転落されたが、人としてはむしろ成長・向上されたのだと感じた。

評価に納得できないことも時にあるだろうが、そこで単に他者のせいにしているだけでは成長していけない。評価するのはあくまで他人の仕事。それをどう受け止め、どう行動するのが自分の仕事。自分の仕事にフォーカスしていこう。

第18(11)話「練習で泣いて、試合で泣くな」

飛田穂洲先生の名言だ。

歩く会が迫っている。本番で泣き泣きリタイアすることにならないよう、真剣に練習に臨んでほしい。来週からいよいよ「白水」コースでの練習が始まるが、朗報がある。白水クリーニングの向かいに、保護猫カフェができた。だからこれからは、「白水」ではなく、「猫カフェ」と呼ぶのも良いだろう。最後の練習は苦しいだろうが、このコースをしっかりと走り切れるように、精一杯頑張ろう。